

令和 5 年 度  
宮崎国際大学 国際教養学部  
一般推薦Ⅱ期

試 験 問 題  
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

問題

次の文章は、文化人類学者で元文化庁長官の青木保<sup>あおきたもつ</sup>さんが、日本人の異文化理解の課題について述べたものです。青木さんの意見を要約するとともに、それに対するあなたの考えを600字以内で述べなさい。

現在の日本の都会では、向こうから日本人とまったく同じような身体と服装をした人が来て出会ったときに、日本語で話しかけたら中国語が返ってくるとか英語が返ってくるとかいった経験をする場合があります。外国に行ったとき、自分たちで自明だと思っていたことがまったく自明でないという経験をし、そこで異文化がある、違った世界があることを認識するのは普通の体験でしょうが、国内で外国人と出会ったときにも同じような経験をすることがあります。また誰も映画やテレビや本を通してでも、自分たちとは違うな、これはなんだろうと思うような異文化との出会いの瞬間があるはずです。

外国語を初めて習い始めたときにも異文化体験ができるのですが、ただ、これまでの日本の学校ではこれを異文化理解の形で教えようとはなかなかしませんでした。英語教育も、最近ようやく、本当は文化としての英語として教えなければいけないと言われだしましたが、これまではほとんどそうではありませんでした。少なくとも私などが受けてきた経験では言葉は文化と切り離されていました。しかし、言葉は人と文化とともに存在するものですから、言葉だけ独立して教わるというのは難しいと思います。そういう点では日本は外国語教育の面でもあまりにも自文化の中に充足しすぎているのではないのでしょうか。私は、日本は外来文化を非常に広く受け入れる、世界でも珍しい社会であると思っています。ですから、日本にすれば世界中の料理があるとか、世界中の文化のいろいろな面が見られることもあるし、欧・米を中心として外国語の書物の翻訳も書店にあふれているわけですが、同時に、日本の文化の特性として、外来文化を自分たちが必要だと思うところは全部取り入れてしまいが、そうすると本来の文化が持っていた形を全部なし崩しにして自文化に同化させてしまう、あるいは消化してしまうところがあるとも思っています。たとえば、平仮名とか片仮名という日本の文字はもともとは中国の漢字からつくり出されたものといわれていますが、いまではこれにさらにローマ字も加えて使っているわけです。それらを日本語の中に吸収してしまい、漢字も本来の中国語とは違う意味や音で用い、ローマ字も日本語的に使っています。

日本文化には、非常に開かれた受容性と、同化あるいは消化による閉鎖性が同居している側面があります。そしてそれが、これだけ外来文化を多く取り入れているのに、依然として異文化に対して非常にナイーブだといわれ、国際化で苦しんでいる大きな理由ではないかと思っています。

ですから、私が申し上げたいことは、異文化理解を改めて問題として取り上げ、そのさま

ざまなあり方を見て、積極的に異文化を意識し発見して理解しようということです。異文化に対する対処の仕方が重要かつ不可欠な時代となりました。「異文化理解」をさまざまな面で検討することは、この地球上において人間そして人類が、互いに平和に協調して発展してゆくための基礎的な行いとなるのではないのでしょうか。

(青木保『異文化理解』による・一部省略がある)

令和 5 年 度  
宮崎国際大学 国際教養学部  
一般推薦Ⅲ期

試 験 問 題  
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

## 問題

次の文章は、立命館アジア太平洋大学の学長である 出口 治明<sup>でくち ちはるあき</sup>さんが、国際競争力の低下している日本で、イノベーション（経済発展の一因としての技術革新）を起こすには、どうすればよいかについて述べたものです。文章を読み、後の問いに答えなさい。

どうしたら日本でもイノベーションを起こせるでしょうか。じつはその方法はもうわかっています。学者は、女性、ダイバーシティ、高学歴がその答えだと述べています。

まずいまの世界はサービス産業が中心になっています。たとえばマニキュアをきれいに塗ることを考えてください。男性も塗っていますが、圧倒的に女性のほうが多いでしょう。世界中でモノを買い、サービスを使っているのは女性が多いのです。ということは女性が女性の欲しいものを考えれば、いままでにない新しい産業が生まれるかもしれない。だから世界では、会社の役員や国会議員の男女比の差をなくすよう、「ク<sup>※1</sup>オータ制」を取り入れているところがあるのです。一方の日本はどうでしょうか。世界経済フォーラムの調査（二〇一九年）によると、日本のジェンダーギャップ指数は百五十三カ国のなかで百二十一番とすごく低い。日本の競争力が落ちて、GDPの世界シェアが下がっているのは女性の地位が低いことがその一因だと思います。

その次がダイバーシティです。ダイバーシティは、さまざまなひとを積極的に活用しようという考え方のことですが、「混ぜたら強くなる」と思ってください。二〇一九年、ラグビーワールドカップで日本チームがベスト8になりました。もし日本で生まれたひとだけでラグビーチームをつくっていたらもっと強くなっていたでしょうか。そうではないですね。混ぜたから強くなったのです。

日本はスポーツの世界では混ぜるようになりましたが、企業ではまだあまり混ぜていません。日本に<sup>※2</sup>ユニコーン企業が三社しかないのは、ダイバーシティが進んでいないからではないでしょうか。

三番目は高学歴です。いろんなことを知っていれば、アイデアも出やすくなります。何より現在の世界は日々変化しており、そのスピードが速いので一生勉強し続けないと追いつけない。<sup>※3</sup>GAF<sup>※3</sup>A やユニコーン企業で働く人びとは高学歴で、自分の国に加えて海外の学位などをもっているひとが多い。でも日本は大学院に行くひとが少ない。大学院に行くひとを企業が大事にしてこなかったからです。産業界と大学のひとが集まって日本の将来をどうしようかと話し合う会議がありました。そこでも大学院生を増やさなくてはいけない、大学院にもっと多くのひとが行ける社会をつくらなければ新しい知恵が出ない、という結論になりました。

ここまで話してきて、日本経済がうまくいかなかった理由はもうわかりますよね。女性の社会進出、ダイバーシティ、高学歴。全部足りなかったからです。

(出口治明「いま、何を学ぶべきか」による・一部省略がある)

(注)

- ※1 クォータ制 …………… 役員や議員の人員構成に、性別、人種などの偏りが生じないよう、一定の比率を定めて選出を行う制度。
- ※2 ユニコーン企業 …… 企業価値が一〇億ドル以上と評価される未上場のベンチャー企業。本文では、二〇一九年の七月末に世界で三百八十社あると説明されている。
- ※3 GAFA …………… アメリカのIT関連企業大手四社(Google、Apple、Facebook、Amazon)の総称。

問1 出口さんの意見を300字以内でまとめなさい。

問2 日本でイノベーションを起こすために、あなたは、「女性の社会進出」「ダイバーシティ」「高学歴」のうち、どれが最も重要だと考えますか。その理由も含め、300字以内で述べなさい。